

あなたのためです 応急手当を!!

口から血を吐いた

口から血を吐くと、吐いた本人も周囲の者もおどろいて、冷静さを失いがちですが、吐いた血の色を確かめるぐらいの、落ちつきは持ちたいものです。とりあえずは、横になって安静にし体調をととのえてから、医師の診察を受けることです。

血を吐いた場合、呼吸器系からの出血か？ 消化器系からの出血か？ 見わけの目安があります。

かけつ とけつ 喀血か吐血か見分ける

喀 血

喀血は、肺、気管支から出血した血を吐いてしまうもので、血液は固まらず、鮮やかな紅色をし、泡がまじっています。

せきこみながら吐くので、呼吸の苦しさや胸痛が伴います。

また、たんに血が混じっていることもあります。

1950年代までは、結核病は日本でも不死の病いと言われて、隔離治療されよく血を吐きました。

喀血は、ほとんどが呼吸器の病気ですが、心臓弁膜症などで肺の血管がつまり、肺硬塞をおこした場合にもみられます。

まず、安静にする。
吐き続けるときは昏
睡体位をとらせる。

かけつ
喀血？

とけつ
吐血？



吐 血

吐血は、消化器に潰瘍とか静脈瘤があり、なにかのきっかけで出血、口から吐いてしまうことを言います。

原因は、酒を飲みすぎて急性胃炎になった時、胃・十二指腸潰瘍、胃がん、肝硬変になった時が多いのです。

胃・十二指腸潰瘍の場合、食後に胃痛が起きたあと、どす黒い血を吐き、胃の未消化物や白く濁った胃液がまじることもあります。赤黒い塊状になるのは、血液が胃液によって酸化されるためです。

黒っぽい血を大量に吐くのは、びらん性胃炎。

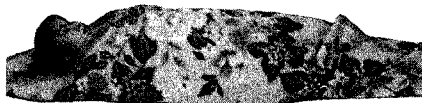
肝硬変＝食道静脈瘤が破れた場合、胃液の酸化作用を受けずに吐くので、喀血と色は変わりません。

応急処置の手順

昏睡体位を
とらせる



寒がるときは
全身を保温



吐物は医者
に見せる



喀 血

本人も周囲の者も、あせらず冷静に対処します。

頭を低くし下半身を高くする昏睡体位をとらせ、気道に喀血がつまらずに流出させるようにします。

胸を冷やしてもよいが、これは気休めになる程度です。

再び喀血がある時は、座らせて前かがみにするか、寝たまま頭を低くして吐かせます。

吐いたあとはうがいをさせ、吐き気がなくなれば、温かい食塩水を飲ませます。

どちらも窒息死するケースが少なくないので、昏睡体位など姿勢を正しくとらせましょう。

吐 血

吐いた量が多くみえても、胃液や未消化物がまじっているので、冷静に対処します。

上半身を低く、両足を高くして横にならせる昏睡体位など、休ませ方は喀血の場合も同じです。

胃を氷のうなどで冷やすと、気分は休まるでしょう。

少量の出血で済んだ場合、吐き気が治まれば、氷水のはいった食塩水をコップ半分を目安に、15～30分ごとにのませ、止血の効果をあげるようにします。これは体液の補給にもなります。

気分が滅入らぬよう、安心させる言葉をかけるのもたいせつです。吐物は、どちらの場合も医師に見せます。